



【登場人物】

源氏の君…牛車の中

夕顔の君…金雲から覗く白い
着物の女性

源氏の従者へ扇を渡す女童…
左端のふたり

【場面解説】

藤壺宮への満たされぬ思いを抱えたまま、様々な女性との恋愛遍歴を繰り返す若き日の源氏の君。乳母の見舞いにやって来た場末の五条の町で、隣家に咲く白い可憐な花を見つけ興味を覚えた源氏の君は従者に花を所望します。その家に住む女童が花を乗せるために差し出した扇には、頭中将(源氏の君の親友で生涯のライバル)の恋人であった夕顔の君からの和歌が書かれていました。

【詞書】ことばがき 扇面に書かれている文字

こゝろあてに

それかとぞみるしら露の

ひかりそへたる

ゆふがほの花

【現代語訳】

この夕顔の花に白露の光を添えたあなた様は、もしかして、あのお方(光源氏)ではないかと当て推量してお眺めしております。